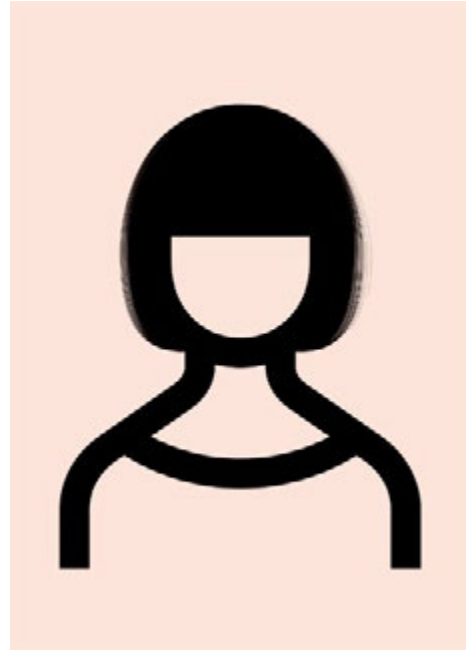


「野生の記号」

デザイン学科 梶藤隆弘 Takahiro Eto



私にとって本作品は、グラフィックデザインのふるさとを訪ねるような、私的な研究の一片である。その始まりは日本の家紋に興味を抱いた学生時代にある。当初は造形に対する興味だけだったが、実際に描く事で形の成り立ちや、バリエーション展開の仕組み、さらには日本人の自然観や美意識、共同体を繋ぐ社会的な役割を知るに至り、アノニマスな小さな記号たちの豊かさに感心した。

このような古きものへの個人的興味を出発点としながら、共同体の記憶に共鳴するような、広がりを持った仕事を実践したい。個の表現を錬成した先に、たとえ限定的であっても社会性や普遍性を獲得することは可能なはずだ。

本作での取り組みについて説明すると、トイレのピクトグラムを想像するとわかりやすいが、記号化の過程で髪のようなディテールや身体の厚みは消失する。その失われたものを再び復活させることで、冷たい記号にささやかな「生」を与えたい。本来、記号は「何か」を伝えるための道具だが、本作では道具的扱いから解放し、記号そのものが自律的に振舞うことを歓迎している。



グラフィックデザイナー。静岡県出身。2010年多摩美術大学大学院博士後期課程修了。佐藤晃一デザイン室、廣村デザイン事務所を経て、STUDY LLC. 設立。名古屋学芸大学デザイン学科特任講師を経て、2018年度より東京工芸大学デザイン学科助教。博士（芸術）。<https://studyllc.tokyo>
世界ポスタートリエナーレトヤマ2009 銅賞。第22回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ Honorary Mention。日本タイポグラフィ年鑑2010 ベストワーク賞。東京TDC賞2009・2010・2018 入選。JAGDA 2018 入選。東京ADC 2018 入選他。

